

artienceグループのあゆみ

artienceグループは、創業から120年以上にわたって常にその時代の社会情勢や需要に柔軟に対応し、成長を続けてきました。時代ごとで事業戦略上の大きな決断を下し、それをたゆまず実践してきた結果が、今日のグループの姿につながっています。



創業者
小林謙太郎
(1875 - 1938)

学術教育の普及を担う高品質な国産印刷インキのために

11歳で横浜から上京した小林謙太郎は、看板屋の徒弟、絵具商の店員を経て、1896年に独立、東京・日本橋に印刷インキ店を開業しました。幼少期から就学できず生涯非識字者だった小林は、日本の発展には学術教育が最重要であり、そこで必要とされる書籍や教科書に使われる印刷インキの国産化と品質向上を志し、1907年1月、東洋インキ製造株式会社を設立しました。

1896~

小林商店を開業

当時のカラー印刷技術の飛躍的な進歩を目の当たりにした小林は、1896年に印刷インキ店を開業しました。また、当時の印刷業者は完成品のインキを購入するのではなく、顔料やワニス(インキ用樹脂)などの原材料を購入し、練肉(原材料を混ぜ合わせてインキを作る)するのが主流でした。そこで小林は、練肉工員を雇っていない中小業者向けに練肉のアウトソーシングを始めました。その後、完成品のインキを製造販売するまでに成長した小林商店でしたが、良質なインキの製造には高価な輸入原材料が欠かせないという障壁が、小林に原材料の自製化という新たな夢を抱かせました。



小林商店時代のインキ色見本シート

1907~

国産インキの一貫生産へ

1907年にインキ業界初の株式会社を設立した小林は、高品質なインキの完全国産化を目指して、原材料である顔料やワニスの自製化研究を推進しました。第一次世界大戦の影響で有機色素の輸入調達が困難になったのをきっかけに研究開発を加速させ、1920年、発色と耐久性に優れたアゾ顔料プリリアントカーミン3Bなどの自製化に成功し量産を開始。さらに1937年、その後の当社グループを代表する顔料製品となるフタロシアニンブルーの自製化に成功しました。こうして、素材から印刷インキまでの一貫生産を支える技術力を獲得し、国内有数のインキ会社に成長しました。



設立当初の東洋インキ製造(株)本社(1910年頃)

1950~

インキ会社からグローバル化学メーカーへ

1951年、アメリカ最大の化学会社インターケミカル(現BASF)と技術提携し、合成樹脂の技術を導入しました。これにより、従来のインキにはない優れた色彩・光沢・耐久性を持った合成樹脂型インキが完成しました。他にも金属塗装剤や粘着剤などの技術も導入し、缶コーティング剤やプラスチック用着色剤、工業用両面テープ、プリント基板用レジストインキなど、多彩な製品を扱う化学メーカーとして発展しました。一方、中国や東南アジアへの輸出を本格化すべく、1963年香港に戦後初の海外子会社を設立、その後も世界各地に拠点を展開し、グローバル事業基盤を構築しました。



工業用両面接着テープ「ダブルフェース®」



粘着剤(感圧性接着剤)「オリバイン®」

2024~

artience 一変革への決意

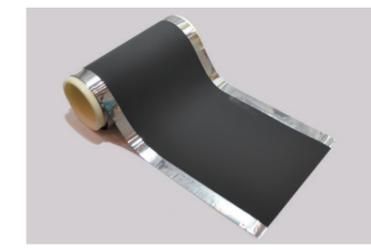
そして2024年1月1日、当社はartience株式会社に社名変更しました。1907年の会社設立以来117年にわたって掲げ続けてきた「東洋インキ」の文字を看板から外すことで、当社グループの大きな変革への決意を表すとともに、第二のスタートアップであることを社内外に示したものです。世界の人びとに向けて先端の技術で先駆の価値を届ける会社へと変革するという強い決意のもと、グループ一丸となって、感性に響く価値を創りだし、心豊かな未来の実現を目指していきます。



2010~

サステナブル社会実現へのチャレンジ

2011年、持株会社制に移行した当社グループは、素材化学メーカーとして新たな市場に向けた先進的な製品開発に取り組み、持続可能な社会の実現にチャレンジしてきました。印刷インキや接着剤における石化系原材料の削減、容器包装の紙化やマテリアルリサイクル性向上に対応したパッケージ材料、太陽電池の効率や寿命を向上させる封止材料、リチウムイオン電池用カーボンナノチューブ(CNT)分散体、高速大容量通信や半導体分野向けの機能性ポリマー材料など、その成果は多岐にわたります。2016年に参入した医療分野でも、貼付剤事業を中心に医療現場・創薬関連材料に注力しています。



リチウムイオン電池用CNT分散体「リオアキュム®」

1990~

自社技術主導による新市場への展開

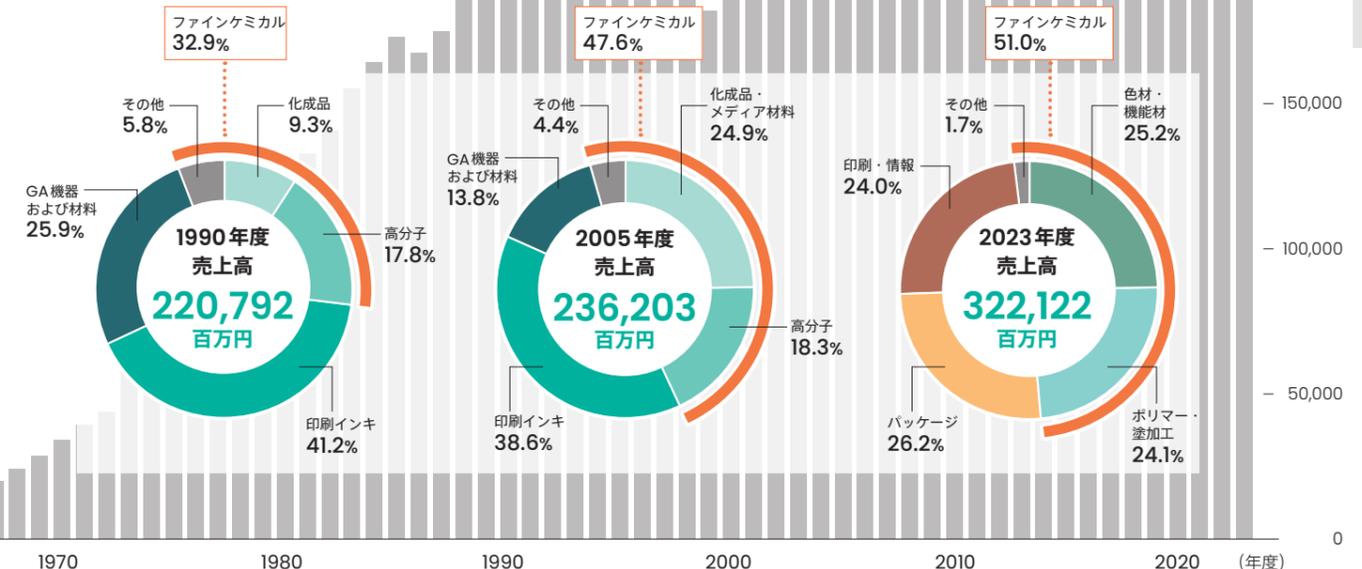
1990年代以降、印刷インキや接着剤、塗料、着色剤など従来の製品群に使われてきた自社技術を、新たな産業分野へと応用する研究開発を推進してきました。有機顔料やポリマーが持つ電氣的・光学的特性、印刷や塗加工で培われた膜構造制御技術、接着剤や色材の開発で用いられる分散制御技術などをベースにした機能性付与技術を進化させ、エレクトロニクス、ディスプレイ、通信、自動車、太陽電池などグループにとっての新たな市場に向けて、OPCドラム用有機色素や導電インキ、FPDカラーフィルタ用レジスト、電磁波シールドフィルムといった素材を開発・展開しました。



FPD用カラーレジスト「ライオキュア®」

電磁波シールドフィルム「リオエルム® TSS」

事業ポートフォリオの変遷



グループ売上高の推移

※1999年度までは単体業績、2000年度以降は連結業績